

私も、子育て雑誌の『公園デビューにはこれが必須』とか、『こうふるまわないと仲間に入れてもらえない』とか、『子育てはこうするべき』という記事に、ずいぶん追い詰められた経験があります。『良いお母さん像』という幻想があつて、そのためには記事のようになくしてはいけないと思ひ込んでいました。

『いいところを見せたい』『立派に頑張っているところだけ見せたい』というコミュニケーションでは、そこに来る人たちの心は休まりません。たとえばソーシャル・ネットワーク・サービスの子育てサークルも、いいところ、頑張っているところだけを見せたい人たちのコミュニケーションだったら、やはりしんどい。

場があれば、人が集まってきた、情報が交わされて、たすけあいが生れます。『子どもをかわいいと思えない瞬間だつてあるよね』とか、自分のかつこ悪いところを話して共感されれば安心も生まれます。『ここに来たら落

ち着く』場所というのは、頑張ったときにはほめ合い、こんなことで頑張らなくていいと言える場所。子どもにも親にも、そういう場所を作りたかったのです」

I am OK. You are OK.  
We are all OK!

さらに開設当初から取り組む女性のエンパワメント事業へも強い思いがある。

「エンパワメント事業を始めたのは、子育て中のあるお母さんの一言がきっかけでした。その人は『私は子どもを産んでから、世の中に対して毎日謝っている』と言うのです。道を歩いていても、電車に乗っていても、『すみません』と言っている。自分が大変な思いをして子どもを育てているのに、そのことを肯定的にとらえられないと。その言葉が心に刺さりました。

それで、『支援されたり、迷惑をかけたりす